

農大有機 NEWS

第 3 号

発行；平成27年10月 島根県立農林大学校

〒 699-2211 大田市波根町 970-1

電話；0854-85-7118

HP：http://www.pref.shimane.lg.jp/nourindaigakko/

福間、松原(有機農業専攻)

■ あいさつ

平素は農林大学校の運営にご理解ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。
有機農業専攻は、設置して4年目となります。品目も比較的安定して出来るものや、なかなか大変なもの、様々ですが、設置以来変わらないのは、学生、職員が水田や畑で日々奮闘している姿です。

お世話になっている農業者、関係者の皆様、引き続きよろしく願いいたします。

島根県立農林大学校 校長 中村純一

■ 今年度の専攻概要

学生数 1年生7人、2年生7人 合計 14人

研修生 担い手育成研修生1人 有機農業実践研修5人 合計6人

■ 今年の卒論(2年生)はこのテーマに取り組んでいます

野菜	<ul style="list-style-type: none">・カボチャのうどんこ病対策・トマトの病害虫防除法と品種比較・キュウリの土着天敵による害虫対策と品種比較・メロンの病害虫対策
水稲	<ul style="list-style-type: none">・雑草発生量と収量・品質・食味の関係・イトミミズによるトロトロ層の形成と抑草・有機水稲の経済性について



イトミミズ調査の様子

■ 学生実習の一コマ

今年度は、台風がいくつも島根県付近を通過したり、収穫時期に周期的な降雨に見舞われ、作業が思うように進みませんでした。それでも、イネはほとんど倒伏せず、稲刈り前半戦(つや姫、コシヒカリ)は無事終了しました。米の等級検査では、やや未熟粒や茶米が見られたものの、すべて1等になりました。今年から選別機のふるい目を1.85mmから1.90mmに大きくして、より粒張りの良いものを販売しています。収量はやや少ないものの、品質の良い米を作ることができました。

今年で水稲有機栽培4年目になりますが、雑草が年々多くなってきています。除草機や田車、米ぬか抑草法、深水管理法など様々な技術を導入しても最後はやはり暑い中での手取り除草になってしまいます。雑草対策の課題は、有機水稲の永遠のテーマになるとは思いますが、今後も色々な技術にチャレンジしたいと思います。



乗用型水田除草機による除草作業

〔研修部門〕「有機農業実践研修」5人受講

今年度で2年目となる、「有機農業実践研修」が5月からスタートしています。今年は若い就農希望の方を含め5人が受講し、10月までの計21回開催されます。

午前中は、職員や外部からの専門家の講義を中心に有機農業の基礎・専門知識を学び、午後からは、研修ほ場などで実習を行います。

また、21回の講義のうち4回は県内の先進的な有機農家をお招きし、実際の栽培方法や農業経営、販売などについて講義していただきました。研修生からは毎回多くの質問が出て、関心の高さがうかがえました。



サツマイモの定植の様子

〔トピックス〕 7～9月の農家研修

農大では2年生が、約1ヶ月間の「先進農業者等体験実習（農家留学）」を9月に行い、また有機専攻独自の農家研修として、1年生は1週間の「地域有機農業体験」を夏休みに行いました。2年生は、長期の研修となり、十分に農家の方の技術や考え方を学ぶことができたと思います。また、就農にもつながる研修になった学生もいます。

1年生は、まだ技術も知識も少ない中で、初めての農家実習になりました。技術の習得というよりは、農家の1日の作業を体験し、農家の方と話をすることが1番の成果になりました。

研修先の農家の皆様、忙しい中、学生を受け入れていただきありがとうございました。

〔連携農業者情報〕 地域農業実習

「柿木村」 「島根おやさい本舗」

農大有機農業専攻では有機栽培農家6

戸と協力協定を結び、「サテライト校」として設置し、講師として招いたり学生の実習先としてお世話になっています。

今年度は5月12日に、県内屈指の有機農業の村で、サテライト校でもある吉賀町柿木村へ視察へ行きました。「NPO法人ゆうきびと」会長の福原圧史氏から、柿木村全体で有機農業に取り組んだ経緯や現在の状況、化学農薬や食品添加物の影響などについて教えていただきました。午後からは、昔から有機JASの認定を受けている石井政信氏のほ場を視察させていただき、有機栽培の篤農技術を教えていただきました。

また、8月24日には、同じくサテライト校である島根おやさい本舗の岸川会長のほ場を見学させていただきました。安来市の中島地区では有機野菜ハウスが建ち並び、島根おやさい本舗の他のメンバー3名（研修生も含む）も入植されています。今年7月には有機JASを取得され、新たな販売ツールを確立されています。栽培技術はもちろんのこと、経営的な面や地域住民との関わりを重視されています。地域で稲刈りがあれば、皆さん手伝いに出られるそうで、地域とのコミュニケーションがうまく取られていると感じました。新規に有機農業で入植される人と、受け入れ側の地域との繋がりの大切さを教えていただきました。



柿木村 福原氏



島根おやさい本舗 岸川氏